

高等学校 2年 特別活動（LHR） 学習指導案

「情報の信頼性を吟味する態度を身につける」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 小濱 久典

1 主題名

チェーンメール、送る？止める？

2 主題について

(1) ねらいについて

今回の授業ではチェーンメールはなぜ送ってはならないのかということについて実際の事例をもとに考えていく。一般に「不幸の手紙」と呼ばれるような悪意に満ちたメールについては、高校生段階の生徒にとって、送ってはならいとすぐに判断できるであろうが「～を助けてい」というような善意のメールについても情報の信頼性やネットワークの混乱、問い合わせの殺到による関係機関の機能停止など様々な問題点があることに気づかせ、ネットワーク社会でのよりよい生き方について考えさせたい。

(2) 生徒の実態について

近年の急速な情報化により、生徒のほとんどが携帯電話を持ち、メールの利用も毎日のように行っている。生徒たちは教科「情報」の授業でもチェーンメールを送ってはならないことを学習しており、情報モラルの向上を目的とした講話やLHRもこれまでに行われてきたが、プロフィールサイトへの個人情報の書き込みが見られるなど、生徒たちは依然として「知識はあるが行動には移せない」段階である。知識を身につけるための情報モラル教育ではなく、ネットワーク社会を生きていく上での行動指標となるような実践を伴った情報モラル教育となるよう、実際の事例をもとにして生徒たち自身が考えることのできる授業にしたい。

(3) 資料について

今回使用する資料は一般に出回ったことのある2種類のチェーンメール本文である。一つは不幸の手紙型と呼ばれるもので、送らなければ不幸になるという内容のものである、もう一つはメール受信者に対して助けを求める形のものである。どちらも複数の相手へ転送をすることが求められており、典型的なチェーンメールと呼ぶことができる。しかしながら、前者の内容に対して拒絶することはたやすく見えるが生徒の中には人の生命が関係する後者の内容のメールに直面した際、どこまで考えを深めて対処できるかは定かではない。今回の授業を通して、こうしたチェーンメールにどのような対処が求められるべきかを生徒一人ひとりに考えさせたい。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、班別に協議したり、意見交換をしたりすることで生徒が主体的に考えながら自分なりの意見を見つけることができるように意識したい。また、それだけにとどまらず、実際にはどのような問題が生じたのかを紹介し、その上で今後生徒たちがどのような生活を送っていくのかを考えさせる機会としたい。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア チェーンメールが社会に及ぼす影響について知り、情報社会のルールとマナーを遵守する生き方を身につけさせる。

イ 情報の信頼性を吟味する態度を身につけ、危険な情報から身を守る能力を身につけさせる。

3 本時の学習 (1 / 1 時間)

(1) 目 標

チェーンメールに関する事例をもとに意見を交換し、なぜチェーンメールを送ってはならないのか考える。

(2) 展 開

過程	時間	学習活動	主な発問と生徒の反応	教師の指導と評価	備考
導 入	5	① 本時の内容確認	「今日はチェーンメールについて考えてみたいと思います。」	観察	
展 開	7	② ワークシートを用いて、不幸の手紙型チェーンメールが届いた場合どのように対処するか考え、発表する。	「例1のようなチェーンメールが届いたらどうしますか？」 「それはなぜですか？」	ワークシート 発表態度 聞く態度 観察	
展 開	25	③ ②の内容を参考にしながら、善意を求めるチェーンメールが届いた場合どのような対処をするか班別に考え、発表する。	「例2のようなメールが届いた場合はどうしますか？」 「班別に協議して発表してください。」	ワークシート 発表態度 聞く態度 観察	
ま と め	8	④ 各班からの意見を集約し、まとめる。	「実際には次のようなことが起こりました。」 「そうした事実を踏まえたうえで、どのような行動が求められるでしょうか。」	ワークシート 聞く態度 観察	
ま と め	5	⑤ 本時の感想を記入する	「授業をとおして感じたことを記録してください」	ワークシート	